

【別紙様式Ⅰ】令和5年度 学校評価報告書

学校名 林中 学校

厚木市教育委員会の基本目標	1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】	校長名 広瀬 清美		
学校教育目標	学校経営の方針			
共生…互いを尊重し、共に支え合う 自律…自ら考え、判断、決定、行動する 創造…豊かな発想をもち、未来を切り拓く	(1)豊かな人間性をはぐくむ「心の教育」の充実を図る。(2)個に応じた指導とインクルーシブ教育を推進する。(3)学習指導の工夫改善を図り、すべての生徒に「確かな学力と体力」を身に付けさせる。(4)家庭・地域との連携と信頼を深め、社会に開かれた学校、信頼される学校づくりを目指す。(5)全教職員による学校経営参画のもと、相互の連携とチーム力を生かした指導体制を維持・向上させる。			
今年度の重点目標				
(1)力あふれる教育 (2)友だちつながる教育 (3)学び深まる教育				
評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
学力向上に向けた取組に関する評価	1	明確な学習評価基準を提示したわかりやすい授業づくりと指導と評価の一体化の工夫	授業研究会を年3回(1学年3クラスずつ)行い、教師の指導力向上の機会へつなげた。研究協議に代表生徒の参加を促し、生徒と共にわかりやすい授業をつくる一助とした。 林塾(昼休みの学習会)は学力ステップアップ支援員と共に学習支援へつなげた。	学習教材の精選に加えてユニバーサルデザインやインクルーシブ教育の視点から生徒一人一人の習熟を適切にみとり、きめ細かい学習指導を目指す。 単元ごとのみとりを重視し、指導を評価に生かす。
情緒面の育成に向けた取組に関する評価	1・2・3	生徒と教師との人間関係づくりと教育相談の充実。 家庭、地域との連携。 いじめ防止に向けて取り組み	個々の生徒にとって「楽しく学校生活を送る」ということが一番大切だと捉え、生徒同士の人間関係を築くよう努め、生徒と教師のコミュニケーションが図れるよう教育相談を充実させた。 また、欠席の多い生徒へは、各ケースに応じて本人保護者と密に連携を図りながら、スモールステップで支援を行った。 本校の課題として、長欠生徒の多さが挙げられる。次年度は未然防止に取り組んでいきたい。	不登校生徒の未然防止に向けて、教育相談を充実させていきたい。特に、生徒が悩みや困り感を抱えたときに、教師やSC、GUAに気軽に相談できる関係づくり、環境づくりを行っていきたい。また、相談室、スタディールーム、リソースルームを積極的に活用し、個々の生徒に幅広く対応し、不登校を未然に防止していきたい
ESD(持続可能な社会のつくり手を育む教育)と学校行事、生徒会活動に関する評価	2・3	生徒会活動や学校行事を通して自主・自立の精神に満ちた実行力と責任感のある生徒を育成する。	生徒会活動や学校行事も活発に運営し、自治的活動の意義を理解させ、活動することができた。 学校ホームページやブログを様々な場面で更新し、保護者の理解を得ることができた。	学校行事については、感染症対策を講じながら多くの機会で保護者が参観できる形を模索し、実行する。 また、個人情報に配慮しながら活動の様子を積極的に発信し、保護者の意見を随時取り入れていく。
今年度の学校関係者評価委員会からの意見				
学校行事、生徒会活動への取組姿勢がよく、学校生活の規範意識も高い。地域素材(人、物、行事など)も教育活動に取り入れられているが、今後もさらに積極的に取り入れられると良い。				
今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針				
生徒による学校評価では、「楽しく学校生活を送れている」生徒が90%の数値をあげているが、「楽しく学校生活を送れていない」10%の生徒に目を向け、誰もが安心安全で楽しいと思える学校づくりを行っていきたい。次年度は、「主体的に学習に取り組む生徒を育む」「不登校生徒の未然防止」を目標に、「チーム林」として一丸となって教育活動を進めたい。				